

令和元年台風第19号に関する緊急報告会

開会挨拶

日本学術会議 防災減災学術連携委員長 米田雅子

10月12日に上陸した台風19号は広い範囲に記録的な大雨をもたらしました。浸水被害は300近い河川に及び、土砂災害は約900、住宅被害は9万棟を超え、人々の暮らしや経済活動に大きな被害を与えました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

地球温暖化と気象災害の関連について、科学的にエビデンスをもって確認されたのは、昨年西日本豪雨の時でした。防災に関わる57学会のネットワークである防災学術連携体と日本学術会議は、昨年7月に市民向け緊急メッセージを出し、「地球環境の変化は、自然災害として身近に迫っていること」を訴えました。

そして、今年の台風19号は、このことが現実であることを私たちに突きつけたのです。

本日は日本学術会議と22の学会から26名が、台風19号の調査結果と今後の対策について発表します。各学会の最新の研究成果を共有するとともに、今後、激化する気象災害にどう取り組むべきか考えていきたいと思えます。異なる分野の研究者の知恵を結集して参ります。

本日は、このシンポジウムを、土木学会の協力により、大阪工業大学梅田キャンパスの常翔ホールに実況中継しております。大阪の皆様、聞こえますでしょうか？また学術会議の2階の大会議室にも映像を送っております。東京会場に500名、大阪会場に400名の申込みがあり、多くの方に参加いただいています。

これから、令和元年台風第19号に関する緊急報告会を開催します。よろしく申し上げます。